

第8日

令和6年2月29日（木）

午前10時50分再開

○議長（小島清人君） 休憩前に引き続き会議を開き、一般質問を続行いたします。

次に、12番中島秀樹議員の質問を許可します。12番中島秀樹議員。

（12番中島秀樹君登壇）

○12番（中島秀樹君） ただいま、議長の発言の許可を得ました、12番議員中島秀樹でございます。

冒頭少し長くなるかもしれませんが、お話をさせていただきたいと思っております。先日、私の大学の友人が自宅に訪ねてまいりました。5年ぶりぐらいにその友人と会いました。彼は不動産鑑定士をしております。不動産鑑定士というのは、司法試験、公認会計士、不動産鑑定士と3つ並ぶ3大国家試験と言われている難関です。1日に7時間ぐらい勉強して、やっと合格できるというような資格です。

彼が言うには、「インターネットを見て中島君の考えていることは大体分かるよ。中島君が悩んでいる朝倉市の人口減少や少子高齢化の問題は、これは全国どこの自治体も持つ共通の悩みだよ」と言いました。それに対して私は、「いやいや、朝倉にはチャンスがあるんだ。150万都市福岡の近隣にあつて、その恩恵を朝倉市は受けることができるんだ」ということを私は言いました。

私は日本一元気な町、福岡の夜景が大好きです。高いビルに登って夜景を見るとききれいだなと思って、時々見たくくなります。彼は不動産鑑定士をしておりますので、「福岡、東京、大阪の大都市の不動産市場は資本の理論で動いているよ」と教えてくれました。

この資本の理論というのは、資本主義において、資本の自己増殖機能を指します。簡単に言いますと、あるお金を投下したら、その投下した以上のものが返ってくるようなそういったメカニズムです。100万円投下したら、少なくとも100万円以上が返ってくるようなそういったメカニズム。これが資本の原理です。

私も福岡はそうだろうなと思います。不動産物件を探したことがありましたけれども、とてもとても高くて手が出ないし、家賃も非常に——地下鉄沿線であつたり、高くて手が出ません。でも私はそうであるからこそ、朝倉にチャンスがあると思っています。福岡の地価が高騰していますので、近隣の朝倉市は地価が安定していますので、そういった方がきっと定住してくれるのではないかと考えています。

私の目指す朝倉市は、民間活力を引き入れて活性化する、発展する朝倉市を頭にイメージしています。すると、大学の友人がこんなことを言いました。「朝倉は、夜、星がきれいなんだよ。すごく星がいっぱい見えるんだよ。いいとこなんだよと言っていた大学生の中島君のことを思い出したよ」と、そういうふうには言いました。私も彼に言われるまで、そう言っていたことを忘れていました。

都会の摩天楼の窓の明かりの輝き、そして夜空に輝く満天の星、私が目指している朝倉はどっちなんだろうと、今、非常に悩んでいます。人口減少社会の中、それにあらがって私は朝倉市の発展を信じて議員として頑張るつもりですけれども、でも市民が望んでいる朝倉って何だろう。未来を見つめた、正しい朝倉って何だろうと考えています。非常に悩んでいます。これは、答えはまだ出ませんので、しばらく考えたいと思っております。議員としての政策の哲学が問われていると思います。

今日はどちらかというと、満天の星の朝倉、これについて質問をしていきたいと思っております。

続きは質問席よりさせていただきます。

(12番中島秀樹君降壇)

○議長（小島清人君） 12番中島秀樹議員。

○12番（中島秀樹君） ちょっと質問席で言い足りなかったんですけども、私が民間活力を取り入れて目指している朝倉は、とどのつまりは資本の論理のある摩天楼のそういった朝倉を私は目指しているんだろうかと。それが、本当に私が目指す朝倉なのかな。それとも、市民が望んでいる朝倉なんだろうかなと、これは非常に悩んでおります。極論すぎるかもしれませんが、その中間を取るというやり方もあるかもしれませんが、考えています。

では、質問に移ります。

質問の順番は、まず、施政方針について、70分の機会をいただいておりますので、これを先にやりたいというふうに思っております。

まず、市長の4番目の基本目標の中に、水の文化村、水辺のふれあいゾーンのキャンプ場整備というのが出てまいります。これ、私いいなと思っております。ホームセンターに行きますと、いつの間にかアウトドア用品売場がどんどん大きくなってきて、今、キャンプブームなんだと思っております。私もファイアストーブと言いまして、中にペレットとか、木材とかを入れて二次燃焼とってきれいな炎が上がるストーブを買いました。そんなふうで、キャンプは非常に楽しいと思っております。

このキャンプブームというのを、私は、朝倉市は掴んでいただいて、活性化に結びつけていただきたいと思っております。なぜこの水辺のふれあいゾーンのキャンプ場整備を思いついたのかをお尋ねいたします。

○議長（小島清人君） 企画振興部長。

○企画振興部長（三浦弘己君） 水辺のふれあいゾーンをなぜキャンプ場にということでございます。経過をちょっと説明させていただきます。

まず、あまぎ水の文化村の利活用の促進、それからダムを観光資源として活用しまして、交流人口の増加とか、市の魅力発信を考える中で、水辺のふれあいゾーンの景観に着目をしたところがございます。

検討に当たっては、市の若手職員を募りまして、この利活用の検討を行ったところでございます。

その中で、寺内ダムのダム湖、それから提体、そういったものが一望できる緑豊かな傾斜というところに立地をしておりますし、そういったところで景観を楽しむことができるということ、それからもともと水辺のふれあいゾーンは、すごく広くゆとりのある空間でございまして、芝生エリアというのはもともと整備をされております。

既存施設を利用しました必要最小限の整備をすることによりまして、あそこに滞在して、今度は自然を満喫できるキャンプ場としての活用ができるということが、職員提案でもなされているところでございます。そういったことから、水辺のふれあいゾーンをキャンプ場として整備をすることとしたところでございます。以上でございます。

○議長（小島清人君） 12番中島議員。

○12番（中島秀樹君） 答弁いただいたことに対して、疑問に思ったことはリターンとして返ささせていただきたいと思いますが、今、答弁の中に、必要最小限という言葉がございました。これは、どういった意味なんだろうかというふうに思ったんですけども、例えば電気設備とか、そういったものはあるんでしょうか。それとも、単純に水道だけあるとか、場所だけあるとか、そういったものなんでしょうか。どういった施設なんでしょうか、お尋ねします。

○議長（小島清人君） 企画振興部長。

○企画振興部長（三浦弘己君） もともと、その広場にはトイレはございましたけれども、古いトイレでございましたので、まずトイレをきれいに整備する。それから管理棟が、横に部屋みたいなのがございましたけれども、そういった管理棟を整備する。電気はなかったもので、オートキャンプ場として整備をする予定でございますので、そういった電気といったものも整備をするというところでございます。

○議長（小島清人君） 12番中島議員。

○12番（中島秀樹君） トイレという言葉が出てまいりましたけども、トイレというのは非常に——日本人は清潔なトイレ、ウォシュレットとかありまして、インバウンドで外国人の方が来られたら、日本のトイレはきれいだというようなことがありますし、これちょっと脱線するんですけども、熊本議員が役所広司さんの映画に行っていましたけれども、私も先日見に行きまして、パーフェクトデイズとあって、役所広司さんが東京のトイレを掃除する、そういった役回りの映画があるんですけど、非常に日本のトイレはクオリティが高いんですね。

トイレというのは、若い人、女性、家族連れなんかを呼ぶのには非常に大事な要素だと思っておりますけれども、それはきれいにしたというのは、本当にきれいなんでしょうか。自慢、胸を張って呼べるような、そういったトイレなんでしょうか。もう一度お尋ねします。

○議長（小島清人君） 企画振興部長。

○企画振興部長（三浦弘己君） トイレについては、議員がおっしゃられるように、清潔できれいなトイレとして整備をするところでございます。

○議長（小島清人君） 12番中島議員。

○12番（中島秀樹君） そうしたら、キャンプ場はやはり景色がいいというのはダム湖できれいだろうと、景色がいいというのは大事な要素だと思うんですけども、火が扱えるというのも大事な要素だと思うんですけど、当然キャンプ場ですから火は扱えると思うんですけども、その点は設備はちゃんと整っているのでしょうか、お尋ねします。

○議長（小島清人君） 企画振興部長。

○企画振興部長（三浦弘己君） もちろん、直火は禁止としておりますけれども、よそのキャンプ場と同じように直火でなければ、先ほど議員さんがおっしゃった道具を持っていらっしゃると言われましたけど、そういった道具さえあれば、火を使えるキャンプ場となっているところでございます。

○議長（小島清人君） 12番中島議員。

○12番（中島秀樹君） それと、オートキャンプ場という言葉が出ましたけれども、これは、俗に言う何ていうんですか、テントを担いで歩いていくような、そういったキャンプ場なんでしょうか。それとも、車でキャンピングカーとかが停まって、よく車中泊してある方がいらっしゃいますよね。ああいった方を対象として——ターゲットはどういった方を狙っているキャンプ場なのか、お尋ねします。

○議長（小島清人君） 企画振興部長。

○企画振興部長（三浦弘己君） ターゲットにつきましては、ファミリー層、家族というのをターゲットとしております。サイトにつきましては、オートキャンプ、家族ですので広い空間、それから荷物が多い、そういったことも考慮しまして、車が乗り入れられるオートキャンプサイトといったのを13区画準備をしております。

それとは別に、フリーテントサイトというのを、4区画準備をしているところでございます。以上でございます。

○議長（小島清人君） 12番中島議員。

○12番（中島秀樹君） そうしましたら、私はキャンプブームというのは、もう爆発的にコロナの時期がありまして、非常にこう、遠くに行けませんのでキャンプブームというのがあって、そのキャンプブームというのは定着化しそうだというふうに考えております。

でも、その一方で先日キャンプ用品のスノーピークという会社がございまして、ここが12月決算なんですけれども、99.9%の減益ということで、一つのキャンプ用品市場というのが、一応どんどん膨らんでいるのが1回収まったと、そういった記事が出ておりました。昔ほどのキャンプ熱というのはなくて、今、安定期に入ろうかなとしていると思うんですね。そういった意味で、これから多分、夏の開業というふうに考えていますが、こここのところのニーズをつかんでいくというのは大事だと思うんです。

市はあくまでも場所を提供、整備するだけで、運営のほうは、多分、水の文化村がすると思うんですけども、ここの部分はうまくつかめるといふうに、市としてあくまでも管理者として考えていらっしゃるのでしょうか。ここのところをどういうふうに捉えていますか、お尋ねいたします。

○議長（小島清人君） 企画振興部長。

○企画振興部長（三浦弘己君） 今、議員が申されましたとおり、水の文化村のほうで、今、財団法人水の文化村が指定管理者となっておりますけれども、このキャンプ場も同じように指定管理者としているところでございます。

また、水の文化村には、夏にウォーターパレットというメインの施設、せせらぎ館の周りに水辺がありますけれども、その周りに家族連れが毎年多く来ております。年間で言いますと、昨年度は約4万9,000人ほどの来客がっておりますし、そのほとんどが夏場にいられているといったところでございますので、そういった親子連れが多いということも捉えまして、相乗効果が期待できるものというふうには、市としては考えておるところでございます。

○議長（小島清人君） 12番中島議員。

○12番（中島秀樹君） 私は、たくさん交流人口であったりとか、定住人口に結びつくそういった観光客とか来てくれたらいいと思っているのですけれども、これは水の文化村が考えることなのかもしれませんけれども、こういった、どうやって朝倉市のキャンプ場の認知を広めていくのか、こういったことは何かお考えでしょうか、案をお持ちでしょうか。確かに管理者で、まだ運営のほうは自分の仕事じゃないよとおっしゃるかもしれませんが、でもこれは大事な朝倉市の観光資源に私はなると思っていますので、こういったことを考えていますでしょうか、お尋ねします。

○議長（小島清人君） 企画振興部長。

○企画振興部長（三浦弘己君） 整備に当たりましては、キャンプ場専門のコンサル会社と一緒に、これまで検討を進めてきたところでございますし、4月からは水の文化村のほうで、そのコンサル会社を引き続き検討していくということでございます。その中でホームページの立ち上げとか、SNSの発信であるとか、そういった専門業者のアドバイスを受けながら広報というのはしていきたいというふうには考えているところでございます。

○議長（小島清人君） 12番中島議員。

○12番（中島秀樹君） 私ですね、この水辺のふれあいゾーンのキャンプ場活用って非常にいい例だと思うんです。マーケティングには2つ方法があって、1つは世の中がこういったニーズがあるよねと。例えば女性が元気でよく外に出るようになって働いている人がいるから、じゃあそういった女性の方たちをターゲットにして、こういった商品を作ろう、こういったサービスをつくらうというマーケティングの手法が一つあります。

その一方で、うちの会社はこういった技術を持っているよと、こういった技術が何か使

えないかねと、何に使えるだろうというように頭を絞ってやるやり方があります。

後者の例でいくと、例えば富士フィルムというのは、昔はカメラにフィルムを入れていたんですけれども、だんだんデジカメになってフィルムを使わなくなったから、うちの技術をどうやって使うだろうと。そうしたらそういったのを医療の分野であったり、フィルムに製品を定着させるそういった技術ですね。そういったのを生かしていこうということで、医療品の分野であったり、化粧品分野であったり、そういった部分で生かしていた。

そういった、私はこの水辺の広場という広場があるよねと、だからこれをどうやって使おうかということで、若手の方が考えてアイデアを出してやったいい事例だと思っています。こういったのをこれからどんどん生かしていくべきだと思っていますが、副市長、これは私が言ったとおり、そういった事例なんでしょうか、そしてまたそういったあるものを活用していく、こういった風土と言いますか、空気というのは、朝倉市役所の中に、職員の間にありますでしょうか、お尋ねします。

○議長（小島清人君） 副市長。

○副市長（佐々木哲治君） 先ほど、部長のほうから若手職員を募りという部分がありましたが、この若手職員、キャンプをしている子たちに集まっていただきました。いろんなプレゼンテーションをしていただいたわけですが、そのプレゼンが、先日、石井議員の質問でもお答えしましたように、職員提案のほうのプレゼンとか、そういったほうに結び付いた一つの要因でもございました。

そのプレゼンの中で、やはり彼らがキャンプをしている中のやり方とか、いろんな利便性とかいうところをかなり研究していただきまして、ここは面白いんじゃないかなという点がありましたので、これ利活用する際に——もともと敷地が非常にキャンプ場に適しているというのは思っておりました。

それとトイレにつきましても、御存じのとおり、今でもそうなんです、ポットン便所でありましたので、何らかの改修が必要なのかなと思っておりましたし、山に人を呼び込む施策というのも考えておりましたので、そういった意味から、今回、こういうキャンプ場の整備というふうに進ませていただきました。以上です。

○議長（小島清人君） 12番中島議員。

○12番（中島秀樹君） ありがとうございます。本当に、非常にいい例だなと思ひまして、私、糸島市に行きますと、糸島市は、今、人気の観光地でもありまして、いいな糸島は、海があつていいな、なんて思うんですけども、残念ながら朝倉市には海がありません。これはもうどんなに嘆いても海はありませんので、だったら山でやっぱり勝負をしないといけないと私は思っています。

そういった意味で、山を、ある——環境分析と、これもマーケティングで3Cというんですけども——環境を分析して、持っているもので何ができるだろうかというニーズを発

掘していくということで、いいやり方だと思っておりますので、ぜひともこういった流れというのは、朝倉市役所の中の活性化、また、政策の勢いがつくと思います。

そして、自分たちが提案した政策というのは、多分、職員は一生懸命、上からやれと言われた政策よりも、ボトムアップの政策というのは一生懸命やられると僕は思っておりますので、ぜひともベストプラクティスとして、このキャンプ場が成功することを祈っております。私はきっと成功するというふうに思っておりますので、それを信じてエールを送りたいと思います。

次に、山と出ましたので、観光資源の活用ということで、私は古処山のことをちょっと述べさせていただこうと思っております。古処山、私、実はこの質問をするに当たりまして、2月27日、一昨日、古処山に登ってまいりました。片道2時間の往復4時間かかって下りてまいりました。大平山に登るような軽装で登りましたので、非常に下りは何回も何回も転んで危ない目をして帰ってまいりました。

古処山に登ったのは、私は多分30年ぶりぐらいじゃないかなと思います。ここでお尋ねいたします。平田部長、古処山は最後に登ったのはいつですか。

○議長（小島清人君） 総務部長。

○総務部長（平田龍次君） 恐らく小学校6年生のときが最後だと思います。

○議長（小島清人君） 12番中島議員。

○12番（中島秀樹君） 副市長、最後に登ったのはいつですか。

○議長（小島清人君） 副市長。

○副市長（佐々木哲治君） 私は基本的に山登りが苦手ございまして、地元の大平山には幾度となく登ったんですが、残念ながら登ったことはございません。

○議長（小島清人君） 12番中島議員。

○12番（中島秀樹君） しつこくなりますので、ここら辺にしておくんですけども、私、周りの人に聞いても、意外と登った人が少ないなど。私も30年ぶりぐらいに登っていますので、人のことは言えないんですけども、登ってみて思ったのが、まず一つが、あまりやはり手がかかってないなと思いました。人の手があまり入ってないよねと思いました。

災害といいますか、豪雨でもう登山道は荒れていまして、岩がゴロゴロ落ちていまして、もう登山道が崩れていて、どこを歩いていいかわからないようなところも何か所かあります。そこは赤いテーピングを、やはり登山客の方がしてくれているから、こっちなんだとか、それとか、古処山は石灰岩が多いですので、白山といって白い石がいっぱい落ちています。そこに白い石を積み重ねてくれている方がいらっしゃいますので、それを見て、こっちのほうなんだなと分かるような、そんな状態です。

でも、やはり手を入れないと、自然に任せて人が来るということはないんじゃないかなと思っております。今、日本一きれいな庭園、20年以上連続1位の足立美術館という庭園が、これ島根県にありますけど、そりゃもう手が入っていてきれいです。私はテレビ

でしか見たことがないもんですから、今度行って見てみたいなど思っているんですけど、やはり手を入れないと私は来ないと思います、人はですね。

ただ、あれだけ荒れていると、そう簡単には手は入れられないなど。あれを手を入れてきっちり整備しようと思ったら、重機も入りませんし、どれだけのお金とマンパワーがかかるんだろうと思います。ですけれども、私は古処山というのは、なじみがやはりちょっと薄い、地元の人でも薄いと思っております。

私がこの質問をしようと思った理由は、2月10日の日本経済新聞の、これ夕刊なんですけども、『低山人気を「宝の山」に』というような記事が出ております。今、日帰り登山がブームだそうです。コロナになって、1泊とかじゃなくて、日帰りで行って帰って来られる山がブームだそうです。

私は古処山、今回1回登って非常にとりこになりましたので、いい山だから、絶対これ朝倉の宝として売り出したいと思っています。観光資源にしたいと思っています。宝満山は1年間に約7万から10万人登っていると言われます。私は宝満山も何回か登ったことがありますけども、古処山と同じくらいですかね、きつきと言いますか。片や10万人も人が登ろうとしているのに、古処山は何で来ないんだろうと不思議でなりません。

まず、今、古処山に登る人があまり行ったことがないとか、私も久しぶりでしたし、私が一昨日登ったときも、途中会ったのは2人だけでした。2人しか会いませんでした。山頂は私1人だけでしたし、平日山登るというのは、なかなか働いている方は難しいと思うんですけども、こんなもんかなと思いましたが、なぜ古処山は人気がないと言いますか、地元の人たちからもそんなに注目を浴びない山だと思いますでしょうか、お尋ねします。

○議長（小島清人君） 農林商工部長。

○農林商工部長（上村一成君） 私のほうから回答させていただきます。

古処山につきましては、私も二十歳ぐらいのときに登ったのが最後でしたが、そのときは清掃登山ということで登らせていただきました。そのときの印象は、かなりきつい山だったかなと思います。清掃登山でしたので2時間以上かけて登ったんですが、そのとき山頂まで行き着くのがかなりきつかったという印象がありまして、その後はもう登ったことがありません。

今、申し上げましたように、古処山は宝満山等に比べまして、低山登山のブームではありますけども、やはり家族連れとか気楽に登るというのには、ちょっと適していない山じゃないかなと思われま。

また、先ほど議員もおっしゃられましたように、大平山ぐらいの山でしたら、標高も315メートルぐらいですし、1時間ぐらいで登れると。そちらのほうが気楽だということで、今のところ古処山のほうは注目がないのかなというふうに考えております。以上です。

○議長（小島清人君） 12番中島議員。

○12番（中島秀樹君） 確かに、今、登山道も荒れていますし、家族で気軽に登るという山ではないと思います。それなりのスティックとかがないと、特に下りは滑って危なくて、私みたいに何回も転ぶような形になると思います。でも、せっかく九州百名山になっていますので、これを生かさない手はないんじゃないかなと思っております。

そういった中で、私は手がかかっていないというふうに言いましたけれども、あれは何て言うんですかね、322号線でいいんですかね、から右に曲がって本覚寺さんのほうに行ったら、古処山の登山者用の駐車場があるんですけども、そこには——駐車場の前にはきちっとした看板があるんですけども、秋月の城下町のほうからずっと上がって行って右折して、本覚寺のほうに曲がるわけですが、その曲がるところには駐車場の表示がないと思います。これは、YAMAPという山登りをする方には有名なアプリがあるんですけども、それにも分かりづらいというようなことが書いてありました。

私は、まずはそこから——車で、バスに乗って古処山に登る人はあまりいないと思いますので、駐車場の整備、きちっとした駐車場がありますので、もう少し案内板とかをきちっと設ければ、もう少しお客を呼べるんじゃないか、登山客を呼べるんじゃないかと思います。私は、その駐車場の案内板をきちっと整備すべきだというふうに考えますが、いかがでしょうか。

○議長（小島清人君） 農林商工部長。

○農林商工部長（上村一成君） 私も駐車場があるのは存じ上げておりましたので、ただ、その案内板が分かりにくいということは認識しておりませんでした。改めまして、検討させていただきたいと思います。

○議長（小島清人君） 12番中島議員。

○12番（中島秀樹君） そして、私は古処山は秋月にあるからいいと思っています。山を下りてきても、やっぱり日帰り登山で、せっかく秋月まで来たんだから、古処山に登ってまっすぐ帰るのは、地元の方はまっすぐ帰ると思うんですけども、福岡市内から来たりとか、そういった人は少し秋月に寄っていいのかなとか、そういったことで秋月の活性化にもつながるんじゃないかなと考えております。特に、秋月藩の成立400年記念で、今、秋月が熱いですので、そういった意味で古処山を私は生かすべきだというふうに考えております。

例えば、もう少し古処山の登山道に手を入れて、もう少し人が近づきやすいような、そういったことはできませんでしょうか。これは商工観光課だけでやれとかいうのはちょっと難しいと思いますので、地元の方の協力を仰いで、テーピングとかそういった表示板とかを、もう少しきちっと、ちょっと手を加えるだけで大分違うのかなと思いますけども、そんなことはできませんでしょうか、お尋ねします。

○議長（小島清人君） 農林商工部長。

○農林商工部長（上村一成君） すみません。この古処山というところには、今まで、大

変申し訳ないんですけど、着目しておりませんで、今、初めて聞いたところでもあります。登山道の整備ということで、一体どういった制約とかがあるのか、どういったところと協力してできるのかというのは、今後とも研究させていただきたいと思います。以上です。

○議長（小島清人君） 12番中島議員。

○12番（中島秀樹君） 何か古処山と屏山と馬見山を縦走するのは、嘉穂アルプスと言われているらしいんですけども、非常に人気があるというふうに書いてありますので、そういったのを、私、生かしていただきたいと思っております。

そして、5号目の登山道から登って、7号目か8号目ぐらいですけれども、非常にコケのきれいな森みたいなのところがあって、私が登った日は天気がよかったですので、非常にコケに日光が当たって、物すごく綺麗なんです。これやっぱりもったいないよなど、この景色はですね。もちろん、苦勞して登ったものだけが味わえる特別な光景なのかもしれませんけれども、大事にしたいなと思っております。

また、山頂の一番てっぺんの岩の上ですかね、そこは何か日本庭園みたいだというようなことが、YAMAPのアプリに書いてあるんですけども、非常に筑豊盆地というんですかね、あっちのほうが見えてきれいな眺めです。これをやっぱり生かさないと手はないと思っておりますので、ぜひとも古処山に一度注目をしていただけないかなと思っております。

秋月というのは、非常にブランド力が私はあると思っております。私がサラリーマン時代に東京に勤務しているときは、まだ甘木市でした。あなたは福岡県らしいけど、どこと言われて、甘木と言っても誰も知らなかったんですけど、東京の方はですね。でも、秋月がありますと言ったら、大体半分ぐらいの方はテレビで見たことがあるとか、行ったことがあるという方も結構いらっしゃいました。それだけ私は秋月というのは、ブランド力がある非常にいいところだと思っております。これを生かさないと手はないと思っております。

今日の西日本新聞に、「秋月発、桜色パリへ」という記事が出ていましたけども、この記事、どなたか読まれましたでしょうか、お尋ねします。

○議長（小島清人君） 農林商工部長。

○農林商工部長（上村一成君） 私のほうも、朝、読ませていただきました。以上です。

○議長（小島清人君） 12番中島議員。

○12番（中島秀樹君） もちろん、皆さんお読みになっていると思うんですけども、秋月にある工房夢細工というところですね。こちらのほうがサッカーのフランス1部リーグの強豪クラブ、パリ・サンジェルマンからジャケットなどの公認衣料品への染色を依頼されたということで、このパリ・サンジェルマンというのは皆さん御存じでしょうけども、メッシ選手とかネイマール選手とかが所属していた強豪の有名クラブですね。ここからそういう依頼が来たということで、新聞記事になっております。

私、この記事を見ていまして、「秋月発」と書いてあるんですね。やっぱり秋月というのが、非常にブランド力があるから、この記事になるんだろうなと思えました。私、秋月

のブランドというのは非常に大事にしたいと思っているんですけども、私はそれが今一つ生かされていないんじゃないかなというふうに感じております。

副市長、これ生かされている——秋月のブランド力、一時期、秋月ってオーバーツーリズムで苦しんだ時期もあったと思うんですけども、それからちょっと、今、下火になっていると思うんですが、ここをもっと生かしたら朝倉市の活性化につながると思うんですけども、どのようにお考えでしょうか、お尋ねします。

○議長（小島清人君） 副市長。

○副市長（佐々木哲治君） 秋月にとって象徴的な山であると思っておりますし、ただ残念ながら、今回の秋月藩の成立400周年の記念の事業の中には、こういったものが関連したものはございません。

確かに、市内にある観光資源の一つであろうと思っておりますし、国の天然記念物に指定を受けておりますツゲの原生林、これは朝倉市の木でもございますが、そういったものもございます。今までは登山者の視点で、そういうものを考えてはいなかった。逆に言うと、秋月に来られる観光客の方の目で、さるきマップとかそういったものを作っていました。

今回、御提案いただきましたので、そういった部分の視点も持ち合わせて、今後、考えてみたいと思っております。

○議長（小島清人君） 12番中島議員。

○12番（中島秀樹君） 登山者の視点という言葉が副市長のほうから出ましたけども、これは総務省の統計局が出している資料によりますと、いろいろどんなスポーツをしていますかという統計があるのですが、若い人、二十歳未満の人の1位はボウリングとかそういったことなんですけども、大体一般的に1位になるのはウォーキングと軽い体操です。

でも、中高年の方は、大体50歳過ぎぐらいから、登山、ハイキングというのが上位に上がってくるんです。特に50歳過ぎたら、スポーツといえば登山みたいな、ウォーキングの次は登山という形になります。この中高年の方というのは私はターゲットにして、中高年の方はある程度時間とお金に余裕がありますので、そういった層を取り込む、秋月も歴史深い町ですので、非常に親和性が高いんじゃないかなと思っております。

そういったターゲットを私は取り込むべきだと、古処山を生かして秋月のブランド力をそれに加えて、もちろん400周年には間に合いませんので、これは仕方がないことですから、いいと思っているんですけども、ぜひとも活用していただきたいと思っております。

そういった中で、秋月にはいろんな名所があります。例えば、秋月博物館であったりとか、それからあきづき市場も秋月校区の方が頑張っていてやっております。こういった施設とのコラボですね。こういったものを私はできないかなと思っております。手っ取り早いのは、割引券を出すとかそういったのがあると思うんですけど、私は古処山に登って、帰りにあきづき市場で何かを買ったらとか、登る前におにぎりを買ったらとか、下りてきてから秋月博物館で見てもらおうとか、そういったコラボができないかなと、そういったことを

考えておりますが、これについてはいかがお考えでしょうか、お尋ねいたします。

○議長（小島清人君） 農林商工部長。

○農林商工部長（上村一成君） 先ほどから申されています古処山、低山登山ということですが、低山登山、全体的にはおっしゃるとおり、本格的な装備や綿密な計画を必要とせず、気軽に山登りを楽しめることが魅力であるということです。言われております古処山につきましては、中世秋月氏が本拠としました、秋月にとっては象徴的な山ということでございます。

そして、旧秋月キャンプ場から山頂までは、九州自然歩道の一部として整備はされております。先ほど申し上げていませんでしたが、この登山道ということで、県が管理しているというところでございます。

また、議員がおっしゃったように駐車場もありますということから、多くの方に、今後、古処山を楽しんでいていただきたいと思っております。

また、観光資源の連携、秋月との連携ができないかということでございますが、朝倉市におきましては、観光資源の連携は重要な課題として認識しております。

現在、市におきましては、水の回廊として山田堰やダム群を観光資源として連携することを検討しております。そして、今回、テーマに挙がりました古処山についても、今後どのような連携ができるのか、研究、検討をしていきたいと思っております。以上です。

○議長（小島清人君） 12番中島議員。

○12番（中島秀樹君） 山頂から小石原川ダムと江川ダムが見えるんです。きれいですよ。本当にきれい。皆さん見てください。そういった観光資源で、私は古処山を、くどいようですけれども、生かしていただきたいと思っております。

先ほど、YAMAPという登山用のアプリのことを言いましたけれども、300万ダウンロード以上だと思うんですけども、こういった方がアンケートを取っています。株式会社YAMAPというところが。それによりますと、興味があり関心があるというのは、日帰り登山が1位、2位が低山登山、そして3番目が初心者でも登りやすい山、それからソロ登山、ここら辺が上位になります。それと、5番目が温泉が近くにある山ということが書いてあります。

ここら辺が非常に人気で、俗に言う、何て言うんですか、北アルプスに行ったりとかそういったのよりも、私はこういった流れというのは、これから続くのかなど。特にソロ登山、YouTubeとか見ていると、1人で登っている方というのは本当に多いんだなと思っておりますので、大事にしたいなと思っております。

そういった中で、すみません、さっき一緒に聞けばよかったんですけども、温泉が近くにある山ということがあって、私も山から下りてまいりまして、顔を洗うと顔が塩辛くて、汗いっぱいいたんだなと思って、温泉に入りたいなと思ったんですけど、入らずに帰ってきたんですが、例えば温泉が——卑弥呼ロマンの湯が頭にあるんですけども、こうい

ったものとコラボするというような、こういったことは考えられませんか。やっぱり山登りと温泉は1つのセットだと思うんですよね。これも何かコラボできないかなと思うんですが、いかがでしょうか。

○議長（小島清人君） 農林商工部長。

○農林商工部長（上村一成君） 議員がおっしゃったとおり、想像いたしますと、すごく疲れを癒やすためにいいものだと考えるところでございます。

今後とも関係部署のほうと検討、研究をしたいと思っておりますのでよろしく願いいたします。

○議長（小島清人君） 12番中島議員。

○12番（中島秀樹君） もう絶対やれとか、そういうことは決して言いませんので、よく検討させて、やっぱり事業として成功させないといけないと思っておりますので、検討していただければと思っております。

先ほど、水の文化村、水辺のふれあいゾーンの検討のプロセスを明らかにしていただきましたけども、そういったので私は古処山に、今回、スポットを当てて言いましたけども、秋月であったりとか、そういったのを若手の知恵を絞ったらきっといいものが出てくると思うんですよね。歴史好きであったりとか、温泉好きであったりとか、山登り好きとか、キャンプ好きとか、こういった人たちの特に若い人たちの意見というのを生かしたら、きっといい案が出てくると思いますので、ぜひとも御検討していただきますようによろしく願いいたします。

あと、すみません。周遊のモデルコースなんかも作っていただきたいなと思っております。さっきも言いましたように、あきづき市場でおにぎり買って、そして古処山登って、下りに博物館を見て、例えば卑弥呼ロマンの湯に入って帰るとか、こういったのを誰かインフルエンサーの中で1人YAMAPとかで、これ行動日記というのが上がってますので、そういうのに上げてくれたらきっと流行るんじゃないかなと思っておりますので、そういったインフルエンサーみたいなのを、誰か職員が1人、僕は上げてもいいなと思っておりますので、それをすれば、それで何人かは来るはずですから、ぜひともやっていただきたいと思っております。

では、古処山の質問については、以上にいたします。

次に、12月議会から繰越しになっていました質問をさせていただきます。

被災体験を活かすということで、災害に強い森林をつくる、これを質問させていただきます。

平成24年、平成29年、令和5年と、豪雨による災害が発生しました。地球温暖化が進む中では、これからも豪雨は繰り返されると思います。私は、よく市民の方と話していると、「山が荒れているもん」と、そういった話をよく聞きます。「針葉樹ばかり植えて、だから山の崩壊とかが起こるんだ」と、そういったことを言われる方もいらっしゃいます。

これはどうなんだろうとは思いますが、いろいろインターネットで資料を探していますと、広葉樹と針葉樹を計画的に植林して、災害に強い森林をつくる必要があるという長野県の文献を読みました。災害に強い森林づくり指針というこの文献です。面白いなと思って読ませていただいたんですけども、これは読まれたことはありますでしょうか、担当課のほうは。お尋ねいたします。

○議長（小島清人君） 農林商工部長。

○農林商工部長（上村一成君） 大変申し訳ありませんが、その書籍を読んだことはありませんけれども、議員がおっしゃいますようなことにつきましては、一説にはそういった考え方があるということは聞き及んでいるところでございます。

○議長（小島清人君） 12番中島議員。

○12番（中島秀樹君） 改めて申しますと、災害に強い森林をつくるためには、広葉樹を計画的に植林して、災害に強い森林をつくる必要があると書いてあります。

朝倉市は、6割が森林で山の多い市です。豪雨を繰り返し受けているため、強い森林づくりに着目をして、100年先を見越して、100年の計をもって、山の状態、森林の状態を調査し、災害に強い森林づくりを考えていく必要があると考えております。どう思われますでしょうか、お尋ねします。

○議長（小島清人君） 農林商工部長。

○農林商工部長（上村一成君） 各地で豪雨災害が頻発、激甚化しておりまして、朝倉市でも甚大な災害となりました。災害に強い森林をつくる施策につきましては、市にとって極めて重要であると認識しているところでございます。

○議長（小島清人君） 12番中島議員。

○12番（中島秀樹君） 先ほど申しました古処山の登山道につきましても、とにかく木がいっぱい倒れていまして、これどうやって誰が片付けるんだろうというぐらい木がいっぱい倒れております。山が荒れたままです。このままほったらかしていいのだろうかと思っております。私は、すみません、よく勉強せずに市の管理みたいな形で、登山道の話の言ったりもしてしまいましたけれども、森林に関して、もう少しどのように認識しているのか、このままでいいとお思いでしょうか。このままほったらかしていても、僕は何も解決しないと思いますが、いかがお考えでしょうか、お尋ねします。

○議長（小島清人君） 農林商工部長。

○農林商工部長（上村一成君） 災害に強い森林づくりというような観点で、お答えさせていただきます。

朝倉市の地形につきましては、山地と谷底平野の存在、急勾配の河川、低平野の存在、筑後川の中流域に位置し、そこに合流する河川が多いという状況の下に、様々な角度から治水対策、災害対策を考える必要があると考えております。

御質問の森林に着目した施策ということですが、森林実態を把握するということは

必要でありますし、いろいろな角度から分析することは大事であるというふうに考えております。災害に強い森林を考える場合、まずは森林が山地崩壊を防いでいる仕組みと限界について、確認する必要があると考えているところでございます。

○議長（小島清人君） 12番中島議員。

○12番（中島秀樹君） 今、仕組みと限界という言葉が出ましたけども、森林が山地崩壊を防いでいる仕組みがあると、一方、限界があるということですけども、このことについて、私は限界はないと、広葉樹を植えれば解決するんじゃないかと、この資料を読んだらそんな印象も受けたんですけども、いかがお考えでしょうか、お尋ねします。

○議長（小島清人君） 農林商工部長。

○農林商工部長（上村一成君） これにつきまして、お答えしますと、この山地崩壊を防ぐ役割を果たす森林の仕組みには、まず根の動きと効率的な排水システムがあるというふうに言われております。根の動きとは、根が岩盤の柔らかい部分や割れ目に食い込む「杭効果」と隣接する木の根同士が絡み合う「ネット効果」が、表層崩壊を起こしにくくしていると言われております。

また、効率的な排水システムとは、地下水の構造と同じように、土壌中に浸透した雨水が水みちとなる土壌層を通じて効率的に排出されることにより、土壌中の土圧が高まり、山地の崩壊を抑制すると言われておりまして、土壌が飽和状態になるのを抑制する構造と理解できます。

しかしながら、森林の持つ機能も平成29年7月の九州北部豪雨のように、時間雨量100ミリが連続するような豪雨につきましては、樹木の根の届く範囲より深いところからの表層崩壊による土砂、流木の発生が起きているということでもあります。このことから、森林の働きには限界があり、広葉樹による森林づくりだけでは有効な豪雨災害対応にならないと考えておるところでございます。以上です。

○議長（小島清人君） 12番中島議員。

○12番（中島秀樹君） 根には、要するに鉛直根と言いまして、まっすぐ下に伸びるものと、ネット効果という言葉が出ましたけども、水平に伸びる水平根というのがあって、この根が私はある程度、土壌をカバーするというような、そういうイメージを持っているんですけども、今、部長のお話によりますと、九州北部豪雨のような想定外の雨が降ると、その効果もどこまで——限界があるということで、確かにこの資料は平成20年、2008年の資料です。2008年ぐらいというのは、今みたいな豪雨というのは降っていなかったんで、どこまで本当なんだろうというのは、確かに少し冷静に考える必要があるかと思います。

でも、今のままではやっぱりまずいよねと。やはり、少しでも森林の機能を発揮してもらおうように、森林を向上させていかないといけないと、機能向上を図らないといけないなと私は思っております。

広葉樹をただ単に植えるということで、広葉樹というのは多分あまりお金にならないと

言ったら変ですけども、やはり山を持っている所有者というのがいるわけですから、これがある程度経済活動に基づいて、山を所有していらっしゃると思うんですね。

これが材木がたくさん植えられないとか、それから伐り出しができないとか、費用がたくさんかかるとか、こういったものでは山というものの維持が成り立たないと思いますので、そういった難しさもあると思いますけれども、ではどういった対応を担当課としてはお考えでしょうか。私はこのままではいけないと思っています。何とか一步一步、やはりほったらかしのまま、このままでは山地崩壊が起こって、どこの山も荒れた状態のままになるとと思いますので、何とかしていかないといけないと思いますが、どのようにお考えでしょうか、お尋ねします。

○議長（小島清人君） 農林商工部長。

○農林商工部長（上村一成君） 災害に強い森林を目指すために、治山施設を充実させることは、即効性があり、重要であります。全ての山林にこの治山施設を造ることは困難であると考えております。

そのため、災害に強い森林とは、土砂崩壊を抑制し、流木が出にくくする森林づくりになると思われます。そのためには、強靱な根系を持った幹が大きな——大径木と言いますが——大径木で構成される森林を時間をかけて育成していくことが必要でありまして、針葉樹、広葉樹などの樹種の違いよりも、より大径木化することを優先するほうが重要であると言われていたところがございます。

樹種に関係なく、間伐などによる密度管理によって、より高齢の幹が大きい森林に導く政策を優先するべきと考えているところがございます。もちろん所有者の経済活動にも寄与するように、併せて検討していく必要があると考えております。

○議長（小島清人君） 12番中島議員。

○12番（中島秀樹君） 今、間伐による密度管理という言葉が出ましたけども、私、やはりさっきの登山道じゃないですけど、手をかけるというのはやっぱり大事だと思うんです。ほったらかしというのはだめだと思います。

そこには経済原理というのにも必要だと思いますので、やはり森林組合さんというのが頑張ってくださいているから、今、私、山が荒れていると言いましたけども、ひょっとしたら、今ぐらいで済んでいるのかもしれませんが。私はあまり森林組合の方の活動というのはよく分からないんですけども、でも地道に活動してあって、この日本の林業を守って経済活動を支えていらっしゃるのも森林組合の方だというふうに思っております。この森林組合の方とは、連絡を取りながら、市としてはやっつけていらっしゃるのでしょうか。それと森林組合の方は、どういった活動をしてあるのでしょうか、ちょっとお尋ねします。

○議長（小島清人君） 農林課長。

○農林課長（三原 大君） お尋ねの森林組合の活動については、森林の整備、作業道なり、林道なり、また間伐、それと伐採などを行っていただいて、もちろん朝倉市の市有林

についても、森林組合に委託をしつつ、森林管理をやっていっていただいておりますし、民間においても、組合員さんがいらっしゃいますので、組合員さんからの委託に基づいて、森林組合が先ほど言った伐採等を行って、管理を行っているという現状です。

○議長（小島清人君） 12番中島議員。

○12番（中島秀樹君） 朝倉市は、6割が山ですので、森林は大事にしないといけないと思いますし、財産だと思うんですね。この森林のイメージというのは、朝倉市の山は魅力があるというものにしないといけないと思っております。

担当課として、森林組合と定期的に連絡を取ったりとか、コミュニケーションを図っていますでしょうか、再度お尋ねします。

○議長（小島清人君） 農林課長。

○農林課長（三原 大君） 定期的に、先ほど言った事業委託も含めた形で、定期的に連絡は取り合っております。

○議長（小島清人君） 12番中島議員。

○12番（中島秀樹君） そしたら、朝倉市ができることというのは、要するに森林の機能の向上、階段をもう一段上がる——今までは、森林組合の方が一生懸命やってくれていたもので、この前の災害もあれくらいで済んだんだと思います。もっと森林組合の方が手を加えていなかったら、もっとひどいことになっていたと思うんですけども、でも、もう一段高いところに上がって、機能の充実を図りたいというふうに、私は考えているんです。

では、朝倉市として何ができますでしょうか、お尋ねします。

○議長（小島清人君） 農林商工部長。

○農林商工部長（上村一成君） 朝倉市の森林政策ということになるろうかと思いますが、災害に強い森林づくりとして、適正な間伐を推進し、適齢木を切り出すときは、再生に必要な植林の実施も併せて行いながら、水源涵養保安林の育成を基本とした施策を行いつつ、できる限り高齢で幹が大きな樹木が存在できるような山林にする必要があると考えております。

そのような森林に導けるよう、関係機関と勉強を行っていくことが重要であると考えます。以上です。

○議長（小島清人君） 12番中島議員。

○12番（中島秀樹君） るる述べてまいりましたが、今までの延長線でステップアップするというのも、確かに大事だと思うんですけども、私は森林をこれからやはり災害と経済を両立させる時代が来たと思っていますので、森林を緑の社会資本——これよく言われる言葉ですけども——と考えて災害の土砂防止機能をもっと発揮できるようなそういった環境、山を強くする、山を財産にする、そういった発想の転換が必要だと思っております。

朝倉は、残念ながら被災をしてしまいました。この経験を生かしたモデルを模索して、

朝倉市は防災減災のフロントランナー、先頭を走る人にならなければならないとっております。発想の転換、今から朝倉市の山をどうしていくのか、これを100年先をにらんでスタートを切るべきだと考えております。大きなストーリー、100年の計を立てるべきだと思っております。

市長、こういった森林とか農業、市長は非常に強い方ですけれども、朝倉市の森林、今まで農業の話が多かったと思うんですけれども、これについて、私は今から新しく100年を見据えて、何かそういった計画を立てるための調査とか、そういったことをやっていくべきだと思うんですけれども、朝倉市の森林は財産です。これを活かして、まちづくりを私はしていくべきだというふうに思っていますが、市長はどのようにお考えになってますか、お尋ねします。

○議長（小島清人君） 市長。

○市長（林 裕二君） 現在、これは全国的な問題であります。朝倉市も、その中に当然入ります。今、林業が成り立たないという時代が、実は昭和50年ぐらいからずっと続いてきておりまして、一時期、木材が海外との関係でありましたけど、皆伐の問題があったりということはございましたけれども、そういうことで林家が、山を持っている人たちが高齢化をして、そしてその子どもたちに継承されていないと、林業として、あるいは山を守るという形で継承されていないという問題が根底にございまして、じゃあそれに対してどうするかということで、国の政策が随分変わってきて、新たな視点が出てきているというのがあります。

災害に対してどうなのかというのが、大きな一つの国の森の在り方というところがございまして、これに関しては、全国の山を多く持っている自治体から、いろんな問題提起がなされていると。実は、私は福岡県の国有林が所在する自治体で構成しております会の会長を、今、しております、先日、九州で各県の代表がそろって、林野庁の造林関係の部長とか、そういった人たち、それから九州森林管理局、それが出席をして、現在の山の状況、そして、それに対する国の政策、そして、それぞれ構成している福岡県でいえば20ぐらいの自治体が、市町村が加盟しておりますけれども、それぞれが抱えている問題をというようなことでやっております。

朝倉市のこれからの森林を考えていくというのは、議員が、今日、御提案された部分は、非常に大切な部分であるというふうにずっと、今、聞いておりました。ただ、現実には非常に厳しい問題があるということもありますので、方向性というか、考え方は、議員さんの今日の御発言は理解できますので、ちょっと研究をしていきたいと思っておりますし、またいろいろ御意見があれば賜りたいというふうに思います。

○議長（小島清人君） 12番中島議員。

○12番（中島秀樹君） 市長がそういった全国の会長をなさってあるというのは、存じ上げませんでした。高齢化であったりとか、担い手不足であったりとか、農業と構図は一緒

なのかなというふうにお話を聞いて思いました。

私は、繰り返しになるんですけども、朝倉市はこれから100年先を目指して、森林についてはスタートを切るべきだと考えております。そして、林市長は御経歴からして、スタートを切るに当たっての哲学を持っていらっしゃる、経験を持っていらっしゃる、それにふさわしい市長だと思います。

多分、100年後までには、その間に何人も市長がいるでしょう。でも、林市長から私が始めたら、これはきっと朝倉市の大きな大きな財産になると思いますので、ぜひともこれから朝倉市の森林、山をどうしていくのか、この荒れ放題の、災害によってやられっぱなしの山をどうしていくのかというのを調査、研究をしていただきたいと思っております。

冒頭に申し上げましたように、星がいっぱい見える満天の星の朝倉というのは、私はやはり大事にしていきたいと思っております。私が学生の頃、40年前ですけども、そのときに誇った朝倉というのは守っていかないといけないと思っております。その一方で、担い手不足、経済との両立、こういったのをどうやっていくのか、議員として知恵を絞っていきたいと思っております。

以上で、私の質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（小島清人君） 12番中島秀樹議員の質問は終わりました。

暫時休憩いたします。午後1時に再開いたします。

午前11時59分休憩